

# 令和3年度 学校関係者評価報告

※評価の基準 4:十分達成された 3:概ね達成された 2:やや不足な点がある 1:ほとんど達成されていない

評価項目	評価指標	学校自己評価コメント	令和3年度自己評価(平均)	令和2年度自己評価(平均)	学校関係者評価	学校関係者評価コメント
1 踏障 まが えい たの 専 門 性 や の 特 高 性 い 等 教 育	1-① 児童生徒や保護者のニーズに応じた個別の指導計画を作成し、指導に活用している。	○ ICT機器活用に向けた校内研修を重ねることで、職員の意識も向上し、ICT機器を積極的に活用した授業を展開することができた。 ○ 児童生徒一人ひとりの実態を丁寧に把握し、指導支援方法を検討・実践することで、児童生徒の変容が見られた。 ● 個別面談、個別の指導計画作成等の目的や作成の仕方等、全職員の意識統一に向けて、校内研究・研修が必要である。	3 (3.1)	3 (3.2)	4 (3.8)	○教師による評価(3指標)、保護者による評価(2指標)ともに高く、専門性の高い教育に向けての取組が充実していると思われる。 ○50周年記念式典に向けての一連の取組や指導の中で、児童生徒の主体性が発揮できる活躍の場が設定されていることが素晴らしいと感じた。 ○日本学校体育研究連合会の体育授業優秀教員全国表彰という誇らしい取組が見られる。研究や実践の成果を共有するなど、職員間の指導法工夫改善につなげてほしい。 ○意識向上するために、先生方の努力に感謝する。先生方の熱意を感じる。今後とも継続をお願いしたい。
	1-② 根拠に基づく指導が行われるよう、実態把握や指導計画の作成、評価を行っている。		3 (3.1)	3 (3.2)	4 (3.5)	
	1-③ 学習効果を高めるために教材教員の工夫や改善を行っている。		3 (3.2)	3 (3.3)	4 (3.8)	
2 組 織 々 的 な で 課 柔 題 軟 に 性 対 の 応 あ し る た 教 育 画 的	2-① 学校、家庭、寄宿舎が連携して効果的な指導を行っている。	○ 学校と寄宿舎とが日常的に連携がとれており、共通した指導方針で対応することができた。それが生徒の安定した生活に繋がった。 ● 学校の課題や課題に対する取組の優先順位が共通理解できていない。学校としての課題を整理し、その課題解決に向けて全職員で取り組んでいく環境が必要である。 ● 発達障がい等への対応など職員の指導力を高める必要がある。職員間で話をする(学び合う)時間、研修する時間の保障が課題である。	3 (3.2)	3 (3.1)	4 (3.5)	○学校、家庭、寄宿舎の連携が図られていることは、取組の成果であると思われる。 ○課題研究や職員研修の内容や方法については、改善に向けての意見が多く、共通理解に基づく取組が求められていると思われる。 ○職員間で学び合う時間、研修する時間を設けられるよう、工夫してほしい。 ○学校自己評価で、多少課題が残っているように思う。大切な課題である。改善に向けて進めてほしい。
	2-② 課題研究の内容は適切で、今後の指導に役立てるための研究になっている。		3 (3.0)	3 (3.1)	3 (3.0)	
	2-③ 職員研修の内容は適切で、専門性や資質の向上を図っている。		3 (3.0)	3 (3.1)	3 (3.0)	
3 小 中 高 一 貫 し た キ ャ リ ア 教 育	3-① 児童生徒の自立と社会参加を目指し、小中高一貫したキャリア教育の推進している。	○ 進路支援部と連携して、保護者への情報提供等を進めることができた。 ● 本人と保護者の進路希望の違い、生徒の実態に対する保護者と学校の認識の違い等があり、情報提供や進路指導支援が難しい場合があった。 ● 進路選択に関して、保護者の不安を解消するために、学校内に留まらず関係機関と連携した取組が必要である。	3 (2.8)	3 (2.9)	3 (3.3)	○文化、芸術、スポーツ活動等の導入や部活動、競技会等への参加等を促進し、児童生徒の新たな才能の開花に積極的に取り組んでおり、そのことが就労及び自立支援の充実につながるものと思われる。 ○職員と保護者が共通する指標3-②、3-③については、いずれもAB評価が高く、進路指導が充実しているようである。コメントから先生方大変なご苦労と粘り強い取組がうかがえる。 ○一貫校の特性(強み)を生かし、小中高一貫したキャリア教育の推進に取り組んでほしい。 ○進路については、生徒の状況や保護者の意見を聞き、卒業後の進路先との打合せ、会議等を行い、配慮された指導がされていたと思う。 ○学校を卒業する生徒の保護者としては、一番の問題である。この問題は、今後つきることはないと思う。学校関係者が一丸となって取り組んでいかなければならない。
	3-② 個々のニーズに応じた進路指導や進路相談等を行っている。		3 (3.0)	3 (3.2)	4 (3.5)	
	3-③ 保護者や関係機関と連携した進路支援の充実を図っている。		3 (3.1)	3 (3.2)	4 (3.8)	

## 令和3年度 学校関係者評価報告

※評価の基準 4:十分達成された 3:概ね達成された 2:やや不足な点がある 1:ほとんど達成されていない

4 地 域 報 告 の 発 信 信 頼 及 び 保 護 者 や 学 校 づ く り	4-① 地域の資源や人材を生かした学習活動に取り組んでいる。	○ コロナ禍で校外での活動が制限される中で、プレゼントを贈る等の間 接交流を実施し、双方にとって有意義な取組となった。工夫した学習保障 の大切さを感じた。 ● 地域の資源の情報が少ない。学校として積極的に情報収集し、共有し て活用できるとよい。 ● 間接交流に加え、Zoomなど活用したオンラインでの直接交流がさら に進むとよい。	3 (2.6)	3 (2.7)	3 (3.3)	○保護者に対して、「学校の教育方針や取組、児童生徒の様子」をしっかり伝えてお り、信頼される学校づくりにつながっているものと思われる。 ○「みやぎ写真日記」をはじめホームページの内容の充実が図られている。 ○コロナ禍で実施の難しさはあるが、地域の資源や人材を生かした学習活動につ いての体制作りや情報共有に取り組んでほしい。  ○コロナ禍の中、先生方も難しい問題だったと思う。その環境の中で色々と工夫 し、考え取り組む姿に感銘を受けた。
	4-② 保護者や地域に学校の取組や必要な情報を伝えている。		3 (2.9)	3 (3.1)	4 (3.8)	
	4-③ 近隣の小中学校等との学校間交流や居住地 校交流を推進している。		3 (2.9)	3 (2.9)	3 (3.0)	
5 の 地 域 の 特 別 的 支 援 能 力 教 育	5-① 地域の小・中学校等に特別支援教育に関する 相談や情報提供を行っている。	○ 登校が難しい児童生徒について、関係機関とのケース会を実施し方法 を検討することで、登校日数増加に繋がった。 ○ 小中学校との連携については、チーフコーディネーターやコーディネ ーターの役割が大きかった。 ● 学校内での解決が困難なケースが増えている。困難ケースの早期把握 と、医療・福祉等の専門機関との連携をさらに強化していく必要がある。	3 (2.9)	3 (3.0)	3 (3.3)	○特別支援学校のチーフコーディネーターからの専門的な助言など、小・中学校等 の先生方からの期待はとても大きいと思われる。特別支援教育の充実に向けての 相談や情報提供等の一層の充実をお願いしたい。  ○生徒への福祉関連事業所等の体験実習を取り組まれており、経験の場の提供や 関係機関との連携もとれていたと思う。  ○宮崎市総合発達支援センターとの連携もを、今後も強化していけるとよい。  ○障がいの状態など困難なこともあると思う。その都度検証し、改善していただ きたい。
	5-② 福祉や医療機関等、関係機関との連携を 図っている。		3 (3.1)	3 (3.2)	4 (3.8)	
6 の 安 全 備 ・ 安 心 な 教 育 環 境	6-① 施設や設備は安全に管理・維持されている。	○ 全職員による定期的な安全点検を実施し、安全な学校環境の維持に 努めている。避難通路、防災道具の定期点検も実施する。 ● 不審者対応訓練、災害時引渡シミュレーションを実施する必要がある。 ● 福祉避難所については、宮崎市と連携し準備を進めていく。	3 (3.0)	3 (3.1)	4 (3.5)	○児童生徒や学校職員の方々の心のこもった挨拶や温かい対応が印象的である。 ○安全に配慮した整理整頓がなされており、作品など児童生徒の学習の成果の掲 示が工夫されている。今後も学年など発達の段階に応じた必要な情報(例えば、就 職・キャリア等の情報)の掲示等を充実させてほしい。 ○児童生徒数や学級数の増加に伴う教室等の増設など、ハード面の整備が求めら れる。 ○万が一の緊急時の対応については、保護者や関係機関等と連携した体験を伴う 訓練や研修を計画実施してほしい。  ○将来起こるであろう南海トラフ地震に備えて、危機管理の徹底をしていただ きたい。  ○今後さらに推進していかねばならない問題である。安心・安全に対することに終 わりはない。より一層の意識の向上をお願いしたい。
	6-② 災害や不審者対応等、緊急時の対応が整備 されている。		3 (2.9)	3 (3.0)	4 (3.5)	